

(A) 沿革表

*年度ではなく、年毎に記載した。昭和14年から平成7年までは、共晶第17号(1996年6月)の沿革表を記載・修正した。平成8～24年は新たに加筆した。

年	西暦	大学、主に工学部関係	学科及び共晶会関係
昭和14	1939	・医学部および理工学部から成る名古屋帝国大学が創設された。 ・理工学部として、金属学科、機械学科、電気学科、応用化学科、航空学科の5学科が設立された。	
15	1940	・理工学部は、4月から授業を開始した。 ・西二葉町の旧愛知県立第一中学校舎を仮校舎として使用した。	・金属学第一～三講座が設置された。(物理冶金学、冶金学、鉄冶金学の3講座)
16	1941		・金属学第四講座(化学冶金学講座)が設置された。 ・金属学科学生クラス会「共晶」が発足した。
17	1942	・理工学部は、工学部及び理学部の二学部に分離した。	・金属学第五講座(金属材料及び加工学講座)が設置された。 ・金属学科第1回卒業生が誕生した。
18	1943	・航空医学研究所が設置された。	
19	1944		
20	1945	・8月終戦を迎えた。 ・工学部の航空学科が廃止され、物理工学科が設置された。	・各研究室が、4月末にはそれぞれ異なる疎開地への移動を完了したが、8月終戦となる。 ・一時的な処置として、滝子(現:名古屋商業学校)などで講義や研究が行われた。
21	1946	・航空医学研究所が廃止され、環境医学研究所への改組が行われた。	・金属学第一、第四、第五講座は高蔵地区校舎に、第二と第三講座は東山地区校舎において研究を行うことになった。
22	1947	・名古屋帝国大学は、名古屋大学(3年制)と改称した。	
23	1948	・文学部、法経学部が設立された。	
24	1949	・国立学校設置法の公布により、旧制の名古屋大学、名古屋大学附属医学専門学校、第八高等学校、名古屋経済専門学校及び岡崎高等師範学校を包括して、新制の名古屋大学(4年制)が設置され、文学部、教育学部、法経学部、理学部、医学部、工学部、環境医学研究所、空電研究所、附属図書館、理学部附属臨海実験所、医学部附属病院、同附属病院分院、同附属看護婦養成施設が置かれた。 ・工学部の物理工学科が廃止された。 ・空電研究所が設置された。	
25	1950	・法経学部が、法学部と経済学部とに分離した。	
26	1951	・農学部が創設された。	
27	1952	・工学部に化学工学科が設置された。	・新制になって初めての卒業生が誕生した。 ・金属同窓会関西支部発会式が行われた。
28	1953	・新制の大学院が設置され、文学研究科・教育学研究科・法学研究科・経済学研究科・理学研究科・工学研究科が置かれた。 ・共同利用アイソトープ実験室が設置された。	・大学院工学研究科に金属工学専攻課程が設置された。 ・旧制の卒業生は、この年が最後となった。
29	1954		
30	1955	・工学部が、東山地区に結集した。 ・大学院に医学研究科、農学研究科が置かれた。	・全研究室が、東山地区校舎に移転した。 ・大学院金属工学専攻の修士課程修了者が初めて誕生した。 ・金属同窓会関東支部第1回総会が開かれた。
31	1956	・工学部に航空学科が設置された。 ・工学部附属自動制御研究施設が設置された。	
32	1957	・理学部附属水質科学研究施設が設置された。	

年	西暦	大学、主に工学部関係	学科及び共晶会関係
33	1958	・工学部に電子工学科が設置された。	・金属学第六講座(鑄造学講座)が設置された。 ・大学院金属工学専攻の博士課程修了者が初めて誕生した。 ・金属学科同窓会「共晶」が発足し、第1回総会が開かれた。 ・共晶会会則が制定された。
34	1959	・工学部に応用物理学科が設置された。 ・共同利用アイントープ実験室が、東山放射性総合研究室へ改編された。 ・法学部が東山地区へ移転した。 ・9月伊勢湾台風(台風15号)が東海地方を襲う。	
35	1960	・工学部に機械工学第二学科が設置された。	
36	1961	・工学部に合成化学科と土木工学科が設置された。 ・プラズマ研究所が設置された。	
37	1962	・工学部に鉄鋼工学科が設置された。	・鉄鋼工学第一講座(精錬物理化学及び粉体精錬工学講座)が設置された。
38	1963	・工学部に建築学科が設置された。 ・工学部附属人工結晶研究施設が設置された。 ・教養部が創設された。	・鉄鋼工学第二講座(熔融体精錬工学講座)及び第三講座(特殊精錬工学講座)が設置された。 ・共通講座の一つとして、工業分析化学第二講座が設置された。
39	1964	・古川図書館が開館した。 ・工学部創設25周年記念式典が行われた。	・武田修三教授が定年退官された。 ・関口春次郎教授が定年退官された。 ・鉄鋼工学第四講座(金属物性工学講座)及び第五講座(鉄鋼加工工学講座)が設置された。 ・共晶会の会誌である共晶が創刊された。(武田修三先生・関口春次郎先生退官記念号)
40	1965		・久恒中陽教授が定年退官された。 ・澤本八衛教授が定年退官された。 ・鉄鋼工学第六講座(金属強度学及び材料試験講座)が設置された。 ・共晶第2号が発行された。(久恒中陽先生・沢本八衛先生退官記念号)
41	1966	・工学部に原子核工学科が設置された。	・大学院工学研究科の金属工学専攻課程を改め、金属工学及び鉄鋼工学専攻課程が設置された。 ・鉄鋼工学科の卒業生が初めて誕生し、共晶会が2学科の卒業生によって構成されるようになった。
42	1967	・工学部に電気工学第二学科が設置された。	・共晶第3号が発行された。(鉄鋼工学科紹介特集号) ・共晶会会員名簿が発行された。
43	1968		・大学院金属工学及び鉄鋼工学専攻の修士課程修了者が初めて誕生した。 ・金属学教室および鉄鋼工学教室が、それぞれ工学部2号館および3号館より5号館へ移転。 ・共晶第4号が発行された。(金属・鉄鋼工学科の新館移転に関する特集号)
44	1969		
45	1970		・佐野幸吉教授が定年退官された。 ・共晶会会員名簿が発行された。
46	1971	・大型計算機センターが設立された。 ・工学部附属土圧研究施設が設置された。	・共晶第5号が発行された。(佐野幸吉先生停年退官記念特集号)
47	1972		
48	1973	・水圏科学研究所が設置された。	
49	1974	・工学部同窓会名簿が発行された。	・金属・鉄鋼工学教室創立35周年記念講演会が行われた。
50	1975	・総合保健体育科学センターが設立された。	・共晶第6号が発行された。
51	1976	・工学部附属電子工学実験施設が設置された。 ・アイントープセンターが、アイントープ総合センターへ移行した。 ・有機廃液焼却処理施設が設置された。	・小島 康助教授が逝去された。

年	西暦	大学、主に工学部関係	学科及び共晶会関係
52	1977	・工学研究科に独立専攻(後に複合領域専攻と呼ばれる)の結晶材料工学専攻が設置された。 ・医療技術短期大学部が創設された。	・共晶第7号が発行された。
53	1978	・工学部同窓会名簿が発行された。	・関口春次郎名誉教授が逝去された。 ・西 成基教授が定年退官された。
54	1979	・総合言語センターが設立された。 ・化学測定機器センターが設立された。 ・工学研究科に独立専攻の地盤工学専攻が設置された。	・共晶第8号が発行された。(西 成基先生退官記念特集号) ・武田修三名誉教授が逝去された。 ・共晶会関西支部が再発足した。 ・中国文革後、初の中国人研究者の留学を受け入れた。
55	1980	・総合計算室が設置され、さらに情報処理教育センターへ改編された。	・井上道雄教授が定年退官された。
56	1981	・新中央図書館が開館した。	・共晶第9号が発行された。(井上道雄先生退官記念特集号)
57	1982	・工学部に電子機械工学科が設置された。 ・工学部同窓会名簿が発行された。 ・工学部に省資源エネルギーセンターが設立された。	
58	1983		
59	1984	・遺伝子実験施設が開設された。	・共晶第10号が発行された。
60	1985	・工学部に情報工学科が設置された。	・共晶会会員名簿が発行された。
61	1986	・工学部同窓会名簿が発行された。	
62	1987		・坂尾 弘教授が定年退官された。 ・戸澤康壽教授が定年退官された。 ・共晶第11号が発行された。(坂尾 弘先生・戸澤康壽先生退官記念特集号) ・鞭 巖教授が逝去された。
63	1988	・先端技術共同開発センターが設立された。	・井村 徹教授が定年退官された。 ・森 一美教授が定年退官された。 ・益本 功教授が定年退官された。 ・共晶第12号が発行された。(鞭 巖先生追悼特集号) ・共晶第13号が発行された。(井村 徹先生・森 一美先生・益本 功先生退官記念特集号)
平成 元年	1989	・プラズマ研究所が、文部省核融合科学研究所と名古屋大学プラズマ科学センターに分離された。 ・工学部の金属学科及び鉄鋼工学科が、材料機能工学及び材料プロセス工学科に改組された。	・上田叔完教授が定年退官された。 ・水池 敦教授が定年退官された。 ・金属学科及び鉄鋼工学科から、材料機能工学科及び材料プロセス工学科への改組が行われ、材料機能工学第一～六講座(材料物理学、材料物理化学、表面工学、材料設計工学、材料強度学、材料物性機能学の6講座)および、材料プロセス工学第一～六講座(材料プロセス設計工学、材料反応プロセス工学、相変工学、材料加工工学、熱加工プロセス工学、複合材料工学の6講座)に改編された。 ・久恒中陽名誉教授が逝去された。
2	1990	・工学部同窓会名簿が発行された。 ・空電研究所が廃止され、新たに太陽地球環境研究所が設立された。 ・名古屋大学年代測定資料研究センターが設立された。	・共晶第14号が発行された。(上田叔完先生・水池敦先生退官記念特集号) ・堂山昌男教授が定年退官された。 ・安達健五教授(理学部)が定年退官された。 ・材料機能工学第七講座(知能材料科学講座)が設置された。 ・澤本八衛名誉教授が逝去された。
3	1991	・工学部の電気系3学科が、電気学科、電子工学科、電子情報学科に、化学系3学科が、応用化学科、物質化学科、分子化学工学科に改組された。 ・工学部の電子機械工学科が改組された。 ・工学研究科に複合領域の量子工学専攻が設置された。 ・工学部に生物機能工学科が設置された。 ・名古屋大学大学院に国際開発研究科が置かれた。 ・総合言語センターが、言語文化部に名称を変更した。	・岡嶋和久教授が定年退官された。 ・材料機能工学科の材料物理学講座が複合専攻群の量子工学専攻の併担講座に改組された。 ・材料プロセス工学第七講座(材料計測解析工学講座)が設置された。

年	西暦	大学、主に工学部関係	学科及び共晶会関係
4	1992	<ul style="list-style-type: none"> 工学部の機械系2学科が機械工学科、機械情報システム工学科に改組された。 名古屋大学大学院に人間情報学研究科が設置された。 工学部附属省資源エネルギー研究センターが廃止され、同高温エネルギー変換研究センターが設置された。 大学院工学研究科に、地盤工学専攻に代わって、複合領域の地圏環境工学専攻が置かれた。 	<ul style="list-style-type: none"> 細井祐三教授が定年退官された。 大塚昭夫教授が定年退官された。 益本 功名誉教授が逝去された。
5	1993	<ul style="list-style-type: none"> 工学研究科に、複合領域のエネルギー理工学専攻が設置された。 ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーが設置された。 教養部が廃止され、情報文化学部が創設された。 水圏科学研究所が、大気水圏科学研究所へ改組転換された。 生物分子応答研究センターが設立された。 留学生センターが設立された。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学院の金属工学専攻及び鉄鋼工学専攻が材料機能工学専攻及び材料プロセス工学専攻に名称変更された。 共晶第15号が発行された。(堂山昌男先生・安達健五先生・岡嶋和久先生退官記念特集号) 共晶会50周年記念講演会が行われた。 共晶会会員名簿が発行された。
6	1994	<ul style="list-style-type: none"> 大学院重点化(学部講座を大学院講座に移行)に基づき、工学部の機械系2学科、航空工学科、電子機械工学科が機械・航空工学科に改組・改名された。また工学研究科の機械・航空系4専攻が改組された。 工学研究科に複合領域のマイクロシステム工学専攻が設置された 教養部が廃止され、四年一貫教育がスタートした。 工学部同窓会名簿が発行された。 	<ul style="list-style-type: none"> 佐野幸吉名誉教授が逝去された。
7	1995	<ul style="list-style-type: none"> 大学院重点化に基づき、工学部の電気系3学科と情報工学科が電気電子・情報工学科に改組・改名された。また工学研究科の電気・情報系4専攻が改編された。 人工結晶研究施設が改組・拡充され、理工科学総合研究センターが設立された。 大学院に多元数理科学研究科が設置された。 	<ul style="list-style-type: none"> 共晶第16号が発行された。(細井祐三先生・大塚昭夫先生退官記念特集号) 沖 猛雄教授が定年退官された。 神馬 敬教授が定年退官された。
8	1996	<ul style="list-style-type: none"> 大学院重点化に基づき、工学部の化学系3学科と生物機能工学科が化学・生物工学科に改組・改名された。また、土木工学科、建築学科が社会環境工学科に改組・改名された。そして、工学研究科の化学系3専攻と生物機能工学専攻が改組された。土木工学専攻、建築学専攻、地圏環境工学専攻が改組された。 工学研究科に複合領域の物質制御工学専攻が設置された。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学院重点化に伴い、材料機能工学科及び材料プロセス工学科の共通講座・工業分析化学第二講座は複合専攻群の物質制御工学専攻の物質計測工学講座に改組され、同講座は材料系専攻の併担講座に改編された。 共晶第17号が発行された。(共晶会50周年記念特別号)
9	1997	<ul style="list-style-type: none"> 大学院重点化に基づき、工学部の材料系2学科、応用物理学科、原子核工学科が物理工学科に改組・改名された。また、工学研究科の材料系2専攻、応用物理学専攻、原子核工学専攻、結晶材料工学専攻が改組された。 工学研究科に複合領域の計算理工学専攻が設置された。 4年計画で進められた大学院重点化によって、工学研究科は伝統的学問分野の領域専攻群(18専攻)と新しい学際領域の複合専攻群(7専攻)により構成されることとなった。 難処理人工物研究センターが設置された。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学院重点化に伴い、工学部の材料機能工学科及び材料プロセス工学科は物理工学科・材料工学コースに改組された。また、大学院の材料機能工学専攻及び材料プロセス工学専攻の光エネルギー工学講座が複合専攻群の結晶材料工学専攻に改組され、同講座は材料系専攻の併担講座に改編された。 河口廣司教授が定年退官された。 共晶第18号が発行された。(沖 猛雄先生・神馬敬先生定年退官記念特集、佐野幸吉先生追悼特集号、共晶第17号「共晶会50周年記念特別号」追補版)
10	1998	<ul style="list-style-type: none"> 工学部同窓会名簿が発行された。 	<ul style="list-style-type: none"> 共晶第19号が発行された。(河口廣司先生定年退官記念特集号)
11	1999		
12	2000		<ul style="list-style-type: none"> 長 隆郎教授が定年退官された。
13	2001	<ul style="list-style-type: none"> 野依良治先生がノーベル化学賞を受賞。 名古屋大学に大学院環境学研究科が設置され、それに伴い、工学研究科建築学専攻が廃止された。 環境量子リサイクルセンターが設置された。 	<ul style="list-style-type: none"> 共晶第20号が発行された。(長 隆郎先生定年退官記念特集号)

年	西暦	大学、主に工学部関係	学科及び共晶会関係
14	2002	<ul style="list-style-type: none"> ・高温エネルギー変換研究センターが改組され、高効率エネルギー変換研究センターが設置された。 ・21世紀COE「自然に学ぶ材料プロセスの創成」が工学研究科の材料系・化学系の連携の下でスタートした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山内陸文教授が定年退官された。 ・佐野正道教授が定年退官された。
15	2003	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋大学大学院情報科学研究科が設置され、それに伴い、工学研究科情報工学専攻が廃止された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小早川 久教授が定年退官された。
16	2004	<ul style="list-style-type: none"> ・国立大学法人法施行により「国立大学法人名古屋大学」設置。 ・大専攻・大講座制移行に伴い、工学研究科の領域専攻群の化学系4専攻が化学・生物工学専攻に、同材料機能工学専攻、材料プロセス工学専攻、応用物理学専攻、原子核工学専攻がマテリアル理工学専攻に、同電気系4専攻が電子情報システム専攻に、同機械系3専攻が機械理工学専攻に、同航空工学専攻が航空宇宙工学専攻に、同土木工学専攻、地圏環境工学専攻が社会基盤工学専攻に改名され、大講座制に改組された。また、複合領域7専攻も大講座制に改組された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮原一哉教授が定年退官された。 ・大専攻・大講座制移行に伴い、領域専攻群の材料機能工学専攻及び材料プロセス工学専攻は、マテリアル理工学専攻・材料工学分野(以後材料系教室とする)に改組・改名され、4つの大講座(材料プロセス創成工学、生体機能材料工学、極限構造材料工学、環境調和材料工学)に改組された。また改組に伴って、複合専攻群の5併担講座は2つの併担大講座(情報電子材料工学、材料評価工学)に改編された。 ・共晶第21号が発行された。(山内陸文先生・小早川 久先生定年退官記念特集号) ・坂 公恭教授が定年退職された。
17	2005		<ul style="list-style-type: none"> ・篠田 剛教授が定年退職された。 ・共晶第22号が発行された。(佐野正道先生・坂公恭先生定年退官退職記念特集号) ・エトピア科学研究所の材料系専攻関連の研究グループが併担研究グループとなり、材料系教室は23研究グループによって構成されることとなった。
18	2006	<ul style="list-style-type: none"> ・理工科学総合研究センター、高効率エネルギー変換研究センター、難処理人工物研究センター、環境量子リサイクル研究センター、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーを統合して名古屋大学エトピア科学研究所が設置された。 ・工学研究科附属プラズマナノ工学研究センターが設置された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浅井滋生教授、野村宏之教授、武田邦彦教授、松井正顯教授が定年退職された。 ・共晶第23号が発行された。(宮原一哉先生・篠田剛先生・武田邦彦先生定年退職記念特集号) ・水池 敦名誉教授が逝去された。
19	2007	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋大学シンクロトン光研究センターが設置された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・井上道雄名誉教授が逝去された。 ・沓名宗春教授、桑原 守教授、宮田隆司教授が定年退職された。 ・共晶第24号が発行された。(浅井滋生先生・野村宏之先生・松井正顯先生定年退職記念特集号) ・西 成基名誉教授が逝去された。
20	2008	<ul style="list-style-type: none"> ・小林 誠先生、益川敏英先生がノーベル物理学賞を受賞。 ・下村 脩先生がノーベル化学賞を受賞。 ・工学研究科附属バックキャストテクノロジー研究センターが設置され、産学連携の研究・教育活動をスタートした。 ・工学研究科附属計算科学連携教育研究センターが設置された。 ・工学研究科5号館(材料系教室)の耐震工事・内外装改修が行われた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共晶第25号が発行された。(沓名宗春先生・桑原守先生・宮田隆司先生定年記念特集号) ・森永正彦教授が定年退職され、黒田光太郎教授が退職された。 ・共晶第26号が発行された。 ・滝田光晴准教授が逝去された。 ・坂尾 弘名誉教授が逝去された。 ・東日本の震災に対し共晶会が義援金を送った。 ・共晶第27号が発行された。(森永正彦先生定年記念特集号) ・森 一美名誉教授が逝去された。
21	2009	<ul style="list-style-type: none"> ・工学研究科附属複合材工学研究センターが設置された。 ・工学研究科附属マイクロ・ナノメカトロニクス研究センターが設置された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高井 治教授、竹田美和教授が定年退職された。 ・共晶会創立70周年記念事業として、共晶第28号(共晶会創立70周年記念特別号)が発行され、記念式典と記念祝賀会が開催された。
22	2010	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンビークル材料研究開発拠点が活動をスタートした。 	
23	2011	<ul style="list-style-type: none"> ・東北地方太平洋沖地震(3月11日)、福島原発事故発生。 ・名古屋大学グリーンモビリティ連携研究センターが設置された。 ・工学部4号館が取り壊され、ES館が新築された。 	
24	2012		